

精神科認定看護師教育課程

平成 30 年度 シラバス



一般社団法人 日本精神科看護協会

目 次

教育理念	1
精神科認定看護師教育課程のカリキュラム一覧	2
平成30年度カリキュラム一覧	3
精神科看護基礎Ⅰ 精神科看護の基本	4
精神科看護基礎Ⅱ 精神科看護の制度と管理	5
精神科看護基礎Ⅲ 精神科看護の実践知の蓄積と活用	7
対象理解Ⅰ 医学的モデルによる対象理解	9
対象理解Ⅱ 精神保健福祉における個別課題	18
精神科看護Ⅰ 看護状況	21
精神科看護Ⅱ 地域生活を支える看護	23
組織内における活動	25
チーム医療	27
患者 - 看護師関係 援助関係	29
演習	30
実習Ⅰ	31
実習Ⅱ	32

◆教育理念

精神科看護の知識や技術を用いて質の高い精神科看護の実践・相談・指導ができる精神科認定看護師を養成する。

◆教育目的

質の高い精神科看護の実践・相談・指導ができる精神科認定看護師を養成するために、これまで蓄積された知識や技術と最新のエビデンスを基盤として、精神科認定看護師に求められる能力を涵養し、総合的能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成する。

◆カリキュラムの概要

- 基礎科目は、精神科認定看護師としての役割に関する知識と技術を習得する科目とする。
- 専門基礎科目は、精神保健医療福祉に関する専門的な知識と技術を習得する科目とする。
- 専門科目は、精神科看護に関する専門的な知識と技術を習得する科目とする。
- 演習・実習は、基礎科目・専門基礎科目・専門科目で習得した知識と技術を活かし、精神科認定看護師としての役割を実践的に習得する科目とする。

【参 考】

精神科看護の定義と精神科認定看護師の役割

当協会は、「精神科看護」を「精神的健康について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自律性の回復を通して、その人らしい生活ができるよう支援することである。」と定義した。この定義は、精神科看護の対象を「精神的健康について援助を必要とする人々」と幅広くとらえ、精神科看護の基本理念を「個人の尊厳と権利擁護」とし、「自律性の回復」と「その人らしい生活」の実現をめざした支援を行うのが精神科看護であるとしている。

精神科認定看護師制度は、精神科看護の定義をふまえ、より質の高い「専門的知識と技術」の習得と、実践における深化を図ることを目標に制度運用やカリキュラムの編成を行う。

精神科看護の定義

精神科看護とは、精神的健康について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自律性の回復を通して、その人らしい生活ができるよう支援することである。

精神科認定看護師の役割

- すぐれた看護実践能力を用いて、質の高い精神科看護を実践すること。
- 精神科看護に関する相談に応じること。
- 精神科看護に関する指導を行うこと。
- 精神科看護に関する知識の発展に貢献すること。

精神科認定看護師教育課程のカリキュラムの一覧

	科目名		時間数	単位
基礎科目	看護倫理	必須科目	15	1
	情報管理と表現法	必須科目	15	1
	精神科看護に関連した法規と制度	必須科目	30	2
	対人関係論	必須科目	15	1
	リーダーシップ論	必須科目	15	1
	看護サービス論	必須科目	15	1
	コンサルテーション論	必須科目	15	1
	教育論	必須科目	15	1
	看護研究	必須科目	15	1
	医療安全管理	必須科目	15	1
	臨床薬理学	必須科目	30	2
	小計		195	13
専門基礎科目	精神科診断治療学	必須科目	60	4
	精神薬理学	必須科目	15	1
	フィジカルアセスメント	必須科目	45	3
	チームアプローチ論	必須科目	15	1
	精神保健福祉	必須科目	30	2
	家族援助論	必須科目	15	1
	小計		180	12
専門科目	精神科看護学	必須科目	30	2
	精神科救急・急性期看護	必須科目	15	1
	行動制限最小化看護	必須科目	15	1
	退院支援	必須科目	15	1
	精神科訪問看護	必須科目	15	1
	リエゾン精神看護	必須科目	15	1
	小計		105	7
演習・実習	演習	必須科目	30	1
	実習Ⅰ	必須科目	135	3
	実習Ⅱ	必須科目	90	2
	小計		255	6
	合計		735	38

講義：15 時間=1 単位=2 日間

演習：30 時間=1 単位=4 日間

実習：45 時間=1 単位=6 日間

●平成30年度カリキュラム一覧

記号	研修会名	日数	日程		科目名(単位数)	定員	受講料 (非会員価格) ※税込価格で表示
			東京	京都			
研 修 会 (基 礎 科 目 ・ 専 門 基 礎 科 目 ・ 専 門 科 目)	A 精神科看護基礎Ⅰ 精神科看護の基本	4	/	4/17(火)～ 4/20(金)	看護倫理(1)、精神科看護学(1)	80	25,920円 (38,880円)
	B 精神科看護基礎Ⅱ 精神科看護の制度と管理	6	/	4/23(月)～ 4/28(土)	精神科看護に関連した法規と制度(2)、医療安全管理(1)	80	38,880円 (58,320円)
	C 精神科看護基礎Ⅲ 精神科看護の実践知の蓄積と活用	4	/	5/1(火)～ 5/4(金)	情報管理と表現法(1)、看護研究(1)	80	25,920円 (38,880円)
	D 対象理解Ⅰ 医学的モデルによる対象理解	8	/	5/8(火)～ 5/11(金)	精神科診断治療学(4)	80	51,840円 (77,760円)
				5/13(日)～ 5/16(水)			
				5/19(土)～ 5/24(木)			
	E 対象理解Ⅱ 精神保健福祉における個別課題	6	/	5/27(日)～ 6/1(金)	フィジカルアセスメント(3)	80	38,880円 (58,320円)
	F 精神科看護Ⅰ 看護状況	4	/	6/5(火)～ 6/10(日)	精神保健福祉(2)、家族援助論(1)	80	38,880円 (58,320円)
	G 精神科看護Ⅱ 地域生活を支える看護	4	/	6/20(水)～ 6/23(土)	精神科救急・急性期看護(1)、行動制限最小化看護(1)	80	25,920円 (38,880円)
	H 組織内における活動	4	/	6/26(火)～ 6/29(金)	退院支援(1)、精神科訪問看護(1)	80	25,920円 (38,880円)
I チーム医療	6	7/10(火)～ 7/15(日)	7/24(火)～ 7/29(日)	看護サービス論(1)、リーダーシップ論(1)、教育論(1)	80	38,880円 (58,320円)	
J 患者-看護師関係 援助関係	6	7/10(火)～ 7/15(日)	7/24(火)～ 7/29(日)	コンサルテーション論(1)、チームアプローチ論(1)、 リエゾン精神看護(1)	40	38,880円 (58,320円)	
実 習	演習	4	※日程右記	/	演習(1) ※実習前(8/18～8/19)／※施設見学(10月～12月) ※実習後(H31年1/11～1/13のうち1日間)	80	43,200円 (64,800円)
	実習Ⅱ	12	実習Ⅱ(2)	43,200円 (64,800円)			
中 間 試 験	中間試験	1	8/17(金)	/	基礎科目、専門基礎科目の単位認定を実施	/	6,480円 (9,720円)

※講義時間：9時～16時

●シラバスの見方

・各科目の到達目標や研修内容を次ページ以降に示す。

・各項目の位置づけは下記の通りである。

大項目：単位取得一覧※および、システム上の科目名

中項目：単元

小項目：具体的な学習内容

キーワード：具体的な学習内容に含まれるキーワード

※単位取得一覧は、認定志願者の出席簿を兼ねている。

・シラバス内の赤字部分は、平成29年度シラバスとの変更点を示す。

・各科目について、参考図書を提示した。

研修会名 **精神科看護基礎 I 精神科看護の基本**

場所 京都研修センター
 日程 平成30年4月17日(火)～4月20日(金)
 定員 80名
 受講料 25,920円(非会員38,880円)
 科目名

看護倫理

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式、グループワークによる倫理カンファレンス
到達目標	○倫理原則について理解を深め、精神科看護領域の倫理問題洞察に活用できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第1巻 看護実践/看護倫理 精神看護出版 ○医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ 医学書院

精神科看護学

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神科看護実践の理論化の重要性と方法を学び、専門的なアセスメント能力を身につける。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第1巻 看護実践/看護倫理 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第7巻 看護教育/看護研究 精神看護出版 ○プチナースBOOKS 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド 照林社 ○リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 医学書院 ○事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本 照林社 ○精神看護エクスペール2 看護記録とクリニカルパス 中山書店

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
看護倫理	看護倫理1	倫理的に考えるための基礎知識	倫理についての基礎知識	倫理とは、法と倫理、組織倫理、臨床倫理、研究倫理
			倫理的に考える	功利主義倫理、徳の倫理、倫理原則、日精看護倫理綱領、ケアリング倫理、看護倫理
			倫理を理解するための基本用語	ケアリング、アドボカシー、パターナリズム、インフォームドコンセント、プライバシーと守秘義務、トリアージ
			倫理的意思決定	4ステップモデル、倫理問題の明確化、倫理的行動の選択肢、行動の最終判断
			看護の臨床倫理	隔離・身体拘束、虐待問題、人生の最終段階の看護・倫理
	看護倫理2	精神科看護実践と倫理	倫理的取り組みの実際	倫理委員会、倫理コンサルテーション、倫理カンファレンス
精神科看護学	精神科看護学1	精神科看護における看護過程	精神科看護の定義	精神科看護の対象、個人の尊厳と権利擁護、自律性の回復、その人らしい生活
			精神科看護におけるアセスメント	精神症状、社会機能、生活能力、ストレングスモデル、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル
			看護における診断・分類と評価	看護診断、看護行為分類
			看護過程の展開	看護過程、アセスメント、診断、計画立案、実施、評価、クリニカルパス、看護必要度
	精神科看護実践を支える理論	セルフケア理論、ニード論などの活用	セルフケアモデル、ニード論、人間関係論、エンパワメント、リカバリー論	
精神科看護学2	精神科看護における記録	観察と記録、記録の種類と特徴、クリニカルパスなど	観察の方法、看護記録、経時記録、フォーカスチャータリング、SOAP、クリニカルパス、適切な表現、観察の方法	

研修会名 精神科看護基礎Ⅱ 精神科看護の制度と管理

場所 京都研修センター
 日程 平成30年4月23日(月)～4月28日(土)
 定員 80名
 受講料 38,880円(非会員58,320円)
 科目名

精神科看護に関連した法規と制度

単位数	2単位(4日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○医療・看護・福祉・メンタルヘルス関連の法規について、その全体を理解する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第1巻 看護実践/看護倫理 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第17巻 司法精神看護 精神看護出版 ○新・看護者のための精神保健福祉法 平成27年版 Q&A 中央法規出版 ○精神保健医療福祉白書2017 中央法規出版 ○我が国の精神保健福祉(精神保健福祉ハンドブック)H27年度版 日本公衆衛生協会

医療安全管理

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○医療安全管理についての基本的知識を理解し、精神科に起こりやすい事故の防止と対処について理解できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第10巻 行動制限最小化看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第17巻 司法精神看護 精神看護出版 ○医療安全とリスクマネジメント ヌーヴェルヒロカワ

研修内容

科目名	大項目	中項目(単元)	小項目(具体的な学習内容)	キーワード
精神科看護に関連した法規と制度	関係法規1	医療と看護を提供する仕組み	医療法	病院、診療所、助産所、医療提供の理念、医療計画、精神科特例、 医療圏、包括的指示、具体的指示
			保健師助産師看護師法	保健師、助産師、看護師、准看護師、免許、業務、 特定行為、行政処分、看護師等の人材確保の促進に関する法律
			診療報酬	健康保険、保険者、被保険者、保険給付、高額医療費、 中央社会保険医療協議会、出来高払い方式、包括払い方式
			健康増進法	都道府県健康増進計画
			介護保険法	介護保険制度の目的・理念・基本方針、要介護状態、保険者、被保険者、保険財政、保険給付、要介護認定、ケアマネジャー、地域支援事業、特定疾病
	関係法規2	精神科医療の仕組み	精神科看護と法制度の歴史	看護人、看護師、精神病者監護法、精神病院法、精神衛生法、精神保健法、精神保健福祉法、相馬事件、大江事件、ライシャワー事件、池田小学校事件、医療観察法、障害者自立支援法、障害者総合支援法
			精神保健福祉法	精神障がい者、精神科病院、精神保健福祉センター、精神保健指定医、 入院制度 、医療および保護、精神医療審査会、精神障害者保健福祉手帳
			医療観察法(鑑定入院、入院医療、通院医療、課題と展望など)	対象者、対象行為、審判、指定医療機関、入院処遇、通院処遇

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科看護に関連した法規と制度	関係法規3	地域生活を支える仕組み	障害者総合支援法	支援対象、施設、障害支援区分
			障害者基本法	障がい者、国・地方公共団体の施策
			障害者雇用促進法	雇用義務制度、納付金制度、職業リハビリテーション
	関係法規4	人権を擁護する仕組み	虐待防止法(高齢者・児童・障がい者)	身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待
			障害者差別解消法	差別的取り扱い、合理的配慮、差別解消支援措置
			発達障害者支援法	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠如・多動性障害、発達障害者支援センター
医療安全管理	医療安全管理1	医療安全の基本	医療安全の基本的知識	ヒューマンエラー、危険予知トレーニング(KYT)、5S、人間工学、リスク分析、医療安全、ハイブリッドの法則、情報伝達エラー、インシデント、アクシデント、医療事故、医療過誤
		医療事故への対処	医療事故への対処	過失、結果予見義務違反、結果回避義務違反、メディエーター、訴訟、裁判資料(記録)、転送義務、当事者へのケア、責任賠償保険
	医療安全管理2	医療機関におけるリスクマネジメント	安全管理とアメニティ	安全管理、アメニティ、安全管理体制、医療安全管理者、医療安全対策加算1・2、医療機器、医療器具、施設の構造、危険物
			精神科に多い事故	暴力、自殺、誤嚥窒息、転倒転落、肺動脈塞栓症、誤薬、無断離院、療養上の世話に伴う事故、診療の補助に伴う事故

研修会名 **精神科看護基礎Ⅲ 精神科看護の実践知の蓄積と活用**

場所 東京研修会場
 日程 平成30年5月1日(火)～5月4日(金)
 定員 80名
 受講料 25,920円(非会員38,880円)
 科目名

情報管理と表現法

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○情報管理の基本となる条件や考え方を理解し、文書等の記録に活用できる。 ○自分自身の考えを論理的にまとめ、小論文やプレゼンテーションを通して相手に伝えることができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第1巻 看護実践/看護倫理 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○ナースのためのレポートの書き方ー看護のプロが教える「伝わる文章」の作法 中央法規出版 ○系統看護学講座別巻 看護情報学 医学書院

看護研究

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○看護研究の意義と方法について基礎的な知識を得る。 ○看護研究を検索し、活用する具体的方法を習得する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第7巻 看護教育/看護研究 精神看護出版 ○精神科看護のための事例研究 精神看護出版 ○黒田裕子の看護研究step by step 第2版 学研 ○看護研究 原理と方法 医学書院

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード	
情報管理と表現法	情報管理と表現法1	情報管理	情報管理の3条件	真正性、見識性、保存性	
			データに基づく品質管理	データ分析、情報とデータ、情報活用、インジケーター、臨床指標	
			個人情報保護法と記録	個人情報、プライバシー、情報セキュリティ、可用性、機密性、完全性、機密情報、情報管理者、情報の破棄、守秘義務、SNS、個人の権利、個人の尊重、情報開示、カルテ開示、第三者提供、匿名化、診療録保管年限、略語、記録監査、経時的記録、SOAP、フォーカスチャーティング	
	情報管理と表現法2	小論文の書き方		文章構成の基本	論文、小論文、論文の構造、序論、本論、結論
				論理的な主張	引用、参考文献、先行研究、資料
		プレゼンテーション		プレゼンテーションの基本	プレゼンテーション、表現方法、対象、プレゼンテーション機器(プロジェクター、パソコン、USB)
				資料の作り方	文字数、フォント、グラフ、図解、レイアウト、スライドソフト
				看護論文のプレゼンテーション	プレゼンテーションの技法、学会発表

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
看護研究	看護研究1	看護研究の意義と 方法の基礎	臨床看護研究の意義	EBM、EBN、EBP、演繹的思考、帰納的思考、 具体理論、中範囲理論、概念モデル、 クリティカルシンキング
			看護研究における倫理	ヘルシンキ宣言、 人を対象とした医学研究の倫理指針、 研究倫理審査委員会 (IRB: Institutional Review Board)、 利益相反、ミスコンダクト、個人情報の保護
			看護研究の種類と方法	事例研究、Mixed Method、 記述統計、推測統計、名義尺度、順序尺度、 間隔尺度、比尺度、データマイニング、
			看護研究活動の 諸段階と支援	研究計画書、メンタリング、講評、論文執筆、査読
	看護研究2	文献検索演習	文献検索と 研究結果の活用	文献検索、データベース検索、インパクトファクター、引用率
			特定のテーマについて 文献検索の実施、検索 方法やプロセスにおけ る工夫の共有	医学中央雑誌、Medline、コクランライブラリ、 論文のクリティーク

研修会名 対象理解 I 医学的モデルによる対象理解

場所 京都研修センター
 日程 平成30年 ①5月8日(火)～5月11日(金) 5月13日(日)～5月16日(水)
 ②5月19日(土)～5月24日(木)
 ③5月27日(日)～6月1日(金)

定員 80名
 受講料 ①精神科診断治療学:51,840円(非会員77,760円)
 ②臨床薬理学・精神薬理学:38,880円(非会員58,320円)
 ③フィジカルアセスメント:38,880円(非会員58,320円)

科目名 臨床薬理学

単位数	2単位(4日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○「薬が効く」とはどうか、薬物に共通する作用機序と体内動態の基礎について説明できる。 ○病態に応じた代表的な薬物治療の概要を理解し、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリングの方法について説明できる。 ○対象の年齢、個人、生理状態、薬物による薬物動態の相違について説明できる。 ○対象が安全で効果的に薬物療法を継続できるために、薬剤がもたらすリスクとベネフィットに関する知識に基づいた薬剤の使い方を、精神科認定看護師として総合的に判断し、対象の支援について説明できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第4巻 精神疾患/薬物療法 精神看護出版 ○はじめの一步のイラスト薬理学 羊土社 ○図解 薬理学第2版 病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略 医学書院

精神薬理学

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神障害の診断と処方の理論の根拠を説明できる。 ○「向精神薬が効く」とはどうか、精神科薬物療法の基礎的理論について説明できる。 ○精神障害の病態に応じた代表的な薬物治療の概要を理解し、薬剤使用の判断、その効果(リスクとベネフィット)のアセスメント、投与後の患者モニタリングの方法について説明できる。 ○服薬心理教育など、対象者の薬物治療を支えるケア技術の考え方について説明できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第4巻 精神疾患/薬物療法 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第11巻 うつ病看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第13巻 精神科薬物療法看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第14巻 薬物・アルコール依存症看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第16巻 老年期精神障害看護 精神看護出版 ○看護者のための精神科薬物療法Q&A 中央法規出版

精神科診断治療学

単位数	4単位(8日間)
学習方法	講義形式、演習
到達目標	○精神機能と精神疾患、診断、治療および身体合併症に関する知識基盤を構築し、それらについて説明できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第2巻 対人関係/グループアプローチ/家族関係 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第3巻 精神機能/精神科診断 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第4巻 精神疾患/薬物療法 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第11巻 うつ病看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第14巻 薬物・アルコール依存症看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第16巻 老年期精神障害看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第18巻 精神科身体合併症看護 精神看護出版 ○ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン 医学書院 ○DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院 ○認知行動療法に基づく精神看護過程 中央法規出版 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks 統合失調症の看護ケア 中央法規出版 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks うつ病・双極性障害の看護ケア 中央法規出版 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks アディクション・パーソナリティ障害の看護ケア 中央法規出版 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks 精神科身体ケア 中央法規出版

フィジカルアセスメント

単位数	3単位(6日間)
学習方法	講義形式、演習
到達目標	○フィジカルアセスメントに関する知識、技術、そして態度を統合して、アセスメントを実施することができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト 第18巻 精神科身体合併症看護 精神看護出版 ○根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ○フィジカルアセスメントの根拠がわかる！機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 ○緊急度・重症度からみた症状別看護過程 第2版 医学書院

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
臨床薬理学	臨床薬理学1	薬理学概論	総論	薬理学の概念、用量反応関係、薬理作用様式、作用機序、薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、投与経路、吸収、分布、代謝、排泄
			生体機能制御系	受容体と細胞内情報伝達系、カルシウムイオン、生体機能制御、イオンチャネル、神経伝達物質、ホルモン、オートコイド、血管内皮由来の調節物質、サイトカイン
			体内動態と薬効、毒性	毒性、中毒
	臨床薬理学2	医薬品の法的取り扱いと医薬品情報の活用	医薬品の法的取扱い	薬事法第2条第1項(医薬品の定義)、麻薬、向精神薬、生物由来製品、特定生物由来製品、毒物、劇物、薬事行政、薬物規制関連法
			安全管理	処方、調剤、薬物投与計画、安全管理、医薬品情報
			医薬品情報とその活用、医薬品のEBM	添付文書、医薬品医療機器情報提供ホームページ
	臨床薬理学3	末梢神経系作用薬と中枢神経系作用薬	自律神経系の構造と機能の概略	交感神経、副交感神経、標的器官
			交感神経系作用薬	アドレナリン作用薬、 α 受容体遮断薬、 β 受容体遮断薬、交感神経終末抑制薬
			副交感神経系作用薬	ムスカリン性作用薬、コリンエステラーゼ阻害薬、抗ムスカリン性作用薬
			自律神経系作用薬	神経節興奮薬、自律神経節遮断薬
			知覚・運動神経系作用薬	局所麻酔薬、神経筋接合部遮断薬、中枢神経弛緩薬
			中枢神経系の構造と機能の概略	大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄
麻酔薬			全身麻酔、吸入麻酔、静脈内麻酔	
催眠薬、抗不安薬			睡眠の生理、ベンゾジアゼピン系、バルビツール酸系、アルコール	
鎮痛薬			解熱性鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬	
抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬			定型抗精神病薬、非定型抗精神病薬、三環系抗うつ薬、四環系抗うつ薬、SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)、SNRI(セロトニン-ノルアドレナリン再取り込み阻害薬)、炭酸リチウム	
中枢神経興奮薬			精神運動刺激薬、幻覚薬	
てんかんおよび神経変性疾患(パーキンソン病及びアルツハイマー病)に関する治療薬			抗てんかん薬、パーキンソン治療薬、認知症治療薬	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
臨床薬理学	臨床薬理学4	呼吸器系作用薬	呼吸器系の構造・機能の概略	気道の神経支配、喘息
			代表的な気管支喘息治療薬、鎮咳薬	抗鼻閉薬、気管支拡張薬、去痰薬・粘液溶解薬、呼吸興奮薬、鎮咳薬、喘息治療薬
	臨床薬理学5	循環器系作用薬	循環器系の構造・機能の概略	心臓の構造、冠動脈、心不全、不整脈、狭心症、高血圧
			代表的な心不全治療薬、抗高血圧症薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬	うっ血性心不全治療薬、強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、高血圧治療薬、末梢血管拡張薬
	臨床薬理学6	消化器作用薬	消化器系の構造・機能の概略と消化器症状	胃液の分泌、便秘、下痢、嘔吐
			代表的な消化器系治療薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、催吐薬・鎮吐薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬、肝疾患治療薬、利胆薬、膵臓作用薬
	臨床薬理学7	生活習慣病	脂質代謝および脂質異常症の概略と治療薬	中性脂肪、コレステロール、抗高脂血症薬
			糖尿病の概要と経口糖尿病治療薬	インスリン分泌、血糖値、糖尿病治療薬
			痛風の概略と治療薬	抗尿酸血症、痛風治療薬
			ビタミン欠乏症の概略とビタミン類	ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンB2、ビタミンB6、ニコチン酸、パントテン酸、ビタミンB12、ビタミンC、ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンK
	臨床薬理学8	抗菌薬化学療法と感染制御(解熱・抗炎症)	抗菌薬の作用、適正使用、薬剤選択	化学療法、抗感染症薬
			耐性菌対策	感染症、炎症反応、免疫機構
臨床薬理学9	特殊な母集団(小児・妊婦・高齢者)への薬物投与	発達、性と生殖、加齢に応じた薬物動態の特徴	身体的機能、性と生殖、加齢	
		薬物療法に伴う生活調整、服薬管理	生活調整、服薬指導管理	
臨床薬理学10	特殊な母集団(脱水・低栄養・臓器障害時)への薬物投与	脱水と低栄養の生理と薬物療法	輸液、利尿薬、脱水、低栄養	
		臓器障害と薬物療法	腎障害、肝障害、すい臓	
臨床薬理学11	薬物有害反応(薬害・有害事象・臨床試験)	薬害と有害事象、臨床試験	医薬品開発、創薬、臨床試験、有害反応、創薬と倫理、医薬品のEBM	
		適切な薬物療法、服薬管理、指導	服薬指導管理、shared decision making	
臨床薬理学12	臨床における適切な薬物使用の実際	臨床医の立場から適切な薬物使用の判断	薬の適応と処方学、個人最適化医療、Therapeutic drug monitoring、薬物投与設計、病態時における薬物動態、有効性と安全性	
		患者との向き合い方とその実践	shared decision making	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神薬理学	精神薬理学1	向精神薬の薬理	向精神薬開発の歴史、向精神薬の有用性と問題点	精神科治療と向精神薬開発の歴史
			代表的な向精神薬	抗精神病薬、パーキンソン薬、抗うつ薬、中枢神経刺激薬、催眠・鎮静薬、気分安定薬、抗認知症薬、断酒補助剤
			向精神薬の作用機序、作用、副作用、相互作用	食事・嗜好品、他の薬物との相互作用、精神症状の悪化、まぎらわしい副作用、 錐体外路症状
			発達、性と生殖、加齢等に応じた薬物治療の考え方と基礎	小児、知的障害・発達障害 妊娠・産後、催奇形性、加齢・高齢者
精神薬理学2	統合失調症の薬物治療	統合失調症における薬物治療の考え方と基礎	治療計画、薬剤選択、至適用量、減薬、急性期・慢性期、反応・寛解・回復 スイッチング ドーパミン過感受性精神病	
精神薬理学3	感情障害の薬物治療	感情障害における薬物治療の考え方と基礎	治療計画、ガイドライン、薬剤選択、認知行動療法と薬物療法、ECTと薬物療法、反応・寛解・回復	
精神薬理学4	アディクション関連問題の薬物治療	アディクション問題に関連した薬物治療の考え方と基礎	アディクション、アルコール関連障害、違法薬物関連障害、危険ドラッグ、医薬品関連障害、摂食障害、パーソナリティ障害	
精神薬理学5	認知症の薬物療法	認知症の薬物治療の考え方と基礎	薬物療法の適応、認知症治療薬の種類と選択、抗精神病薬の併用、薬物療法の注意点	
精神薬理学6	薬物治療を支えるケア技術	薬物治療を支えるためのマネジメント	対象の薬物治療を支えるケア技術の考え方と基礎、服薬の自己決定	インフォームドコンセント、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス、服薬における患者の権利、ストレングス、オープンダイアログ、ユマニチュード
			服薬支援、自己管理	心理教育、地域生活、行動変容、自覚的薬物体験、飲み忘れ、飲み間違え クロザリル患者モニタリングサービス (CPMS Clozaril Patient Monitoring Service)
			頓服の使い方	不穏時、不安時、不眠時、機械的拘束と科学的拘束
			筋肉内注射	持効性注射剤、安全性、再発防止、QOL向上、筋肉内注射の技術
			対象の薬物治療を支えるためのマネジメント、その前提となる考え方	現任教育、多職種連携、リスクマネジメント、医薬品の適正使用、最新情報の入手方法、医療用医薬品添付文書

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科診断治療学	精神科診断治療学1	精神機能論	精神機能の分類	注意集中機能、知覚機能、認知機能、感情機能、学習機能、人格統合機能
			精神機能の障害	意識、知覚、記憶、思考、知能、感情、意欲と行動、自己概念と自己意識
			精神発達論	フロイト、マラー、エリクソン、心的過程、防衛機制、エス(イド)、自我(エゴ)、超自我(スーパーエゴ)、分離-個体化・対象恒常性、生涯発達・葛藤
	精神科診断治療学2	精神科診断学	精神障害の診断についての考え方	精神医学の歴史、 従来診断、内因性精神障害、外因性精神障害、心因性精神障害、操作的診断 、DSM-IV、DSM-5、ICD-10
			面接法	精神科診断面接、精神療法面接、ナラティブアプローチ
			検査法とアセスメント	臨床心理検査、神経心理学的検査、髄液検査、脳波、画像診断、臨床評価尺度(GAF、BPRS、GHQ、HDS-R、PANSS、LASMIなど)
			生活機能評価	ICF(国際生活機能分類)、国際障害分類(ICIDH)
		専門療法1	身体療法	薬物療法、電気けいれん療法、光(刺激)療法、 磁気刺激治療(TMS)
			精神療法	支持的精神療法、認知行動療法、精神分析的な精神療法、集団精神療法、家族療法、芸術療法、森田療法、遊戯療法
	精神科診断治療学3	専門療法2	社会生活技能訓練(SST)	生活技能の定義、ストレス、脆弱性、対処技能モデル、受信技能、処理技能、送信技能
精神科診断治療学4	専門療法3	認知行動療法	認知モデル、自動思考、スキーマ、認知行動療法の技法、ソクラテス式質問法	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科 診断治療学	精神科診断治療学5	精神疾患論	F0症状性を含む器質性精神障害とその治療法	アルツハイマー型認知症、血管性認知症、器質性健忘症候群、ピック病、せん妄、BPSD、意識障害、脳波、画像所見、HDS -R
			F1精神作用物質使用による精神および行動の障害とその治療法	依存と嗜癖、依存症の病態生理、離脱症状
				健忘症候群、BPRS、セルフヘルプグループ、行動障害、多幸感及び脱抑制
			F2統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害とその治療法	自我障害、陽性症状、陰性症状、情動的混乱、自閉、強迫性、残遺状態、緊張病症状、常同性
			F3気分(感情)障害とその治療法	双極及び関連障害(双極Ⅰ型・Ⅱ型、気分循環症、不安性苦悩型、混合型等)抑うつ障害、自殺念慮、身体性症候群、心理社会的ストレス因子、光トポグラフィ、ECT
			F4神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害とその治療法	恐怖症、パニック障害、不安性障害、強迫性障害、解離性転換性障害、ストレス反応、コーピングと適応、パーソナリティ傾向
			F5生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群とその治療法	摂食障害(神経性無食欲症・神経性過食症)、睡眠障害、性機能不全、産褥精神障害
			F6成人のパーソナリティおよび行動の障害とその治療法	習慣および衝動の障害、情緒状態、トランス、自己概念、認知機能(ゆがみ)、自傷他害、性的逸脱
			F7精神遅滞(知的障害)とその治療法	知能水準、行動障害、重複障害、田中ビネー知能検査、WISC-III
			F8心理的発達の障害とその治療法	遺伝的要因、生物学的成熟、構音障害、言語障害、てんかん、広汎性発達障害、レット症候群、機能発達の障害、社会的機能の障害
F9小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害とその治療法	多動性障害、行為障害、反抗挑戦性障害、睡眠覚醒障害、うつ病、不安障害強迫障害、破壊的衝動、アディクション、ストレス因子関連障害(愛着障害、PTSD等)、コミュニケーション障害			

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科診断治療学	精神科診断治療学6	精神科医療における身体合併症のリスク	精神と身体をつながり	中枢神経系、自律神経系、内分泌系、脳から末梢への情報伝達システム、不安・緊張・抑うつによる身体反応、身体化(防衛機制)
			精神疾患患者の身体合併症治療における問題点	インフォームドコンセント、精神科と一般診療科の連携、高齢化
		精神科でみられる身体合併症	精神疾患に併発した身体疾患	悪性腫瘍、肥満、高脂血症、糖尿病
			身体疾患または身体的要因に起因する精神症状・精神疾患	せん妄、抑うつ、幻覚・妄想、器質性精神病
			精神科治療の副作用としての身体疾患	隔離・身体拘束による身体症状(肺血栓塞栓症)、抗精神病薬による身体的副作用
			精神症状・精神疾患に起因する身体疾患・症状	自傷行為、自殺企図、拒食・不食、自律神経症状
	精神科における認知症と老年期精神障害	認知症患者と老年期精神障害がい者の特徴	アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症、前頭側頭型認知症、中核症状、周辺症状、高齢統合失調症、老年期うつ	
	精神科診断治療学7	代表的な状態像のアセスメント	自傷行為、他害行為のおそれのある精神症状のアセスメント	抑うつ状態、躁状態、幻覚妄想状態、精神運動興奮状態、昏迷状態、意識障害、知的障害、人格の病的状態、情報収集、アセスメント
			高齢者に起こりやすい精神症状のアセスメント	認知機能障害、せん妄、老年期のうつ、老年期の幻覚・妄想、老年期の神経症性障害
			睡眠障害のある患者のアセスメント	入眠障害、中途覚醒、早朝覚醒、日内変動、睡眠パターン、睡眠薬

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント1	精神科領域の身体的観察(概論)	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの目的、意義、アセスメントに臨む姿勢と進め方、主観的情報と客観的情報、バイタルサイン
			フィジカルイグザミネーションの手技	視診・触診・打診・聴診の目的、方法
	フィジカルアセスメント2	精神科領域の身体的観察(呼吸・循環)	呼吸器系のアセスメント	気管・気管支・肺、胸郭の構造と機能、呼吸の機能、ガス交換、呼吸の調節、呼吸回数、胸式呼吸、腹式呼吸、1回換気量、異常呼吸、換気血流不均衡、酸塩基平衡、呼吸器系の視診・触診・打診・聴診
				呼吸困難、咳嗽、喀痰、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、CO ₂ ナルコーシス、過換気症候群
			循環器系のアセスメント	心臓・血管系の構造と機能、動脈硬化、不整脈、体循環、肺循環、頸部の血管、抹消循環、脈拍、血圧、心音、循環器系の触診・聴診・視診、心電図、胸痛、動悸、ショック、心筋梗塞、狭心症、深部静脈血栓症
	フィジカルアセスメント3	精神科領域の身体的観察(消化器・腎・泌尿器・内分泌)	消化器系のアセスメント	腹部の構造と機能、摂食・嚥下機能、栄養吸収、消化器系の問診・触診・聴診・視診・打診、腹部症状、悪心、嘔吐、イレウス、胃瘻、肝機能障害、肝硬変
			腎・泌尿器系のアセスメント	腎・泌尿器系の構造と機能、排泄機能、排尿、腎・泌尿器系の問診・視診・触診、尿閉
			内分泌系のアセスメント	内分泌系の構造と機能、代謝機能、内分泌系の問診・視診、糖尿病、肥満
	フィジカルアセスメント4	精神科領域の身体的観察(中枢神経系・運動器系・感覚器系)	中枢神経系のアセスメント	脳・神経系の構造と機能、中枢神経系の役割、抹消神経系の役割、反射、意識状態、精神機能、高次脳機能、自律神経、痙攣、失語、失行、失認
			運動器系のアセスメント	運動器系の構造と機能、関節可動域、筋力、歩行、不随意運動
感覚器系のアセスメント			感覚器系の構造と機能、眼位、眼球運動、視力、聴力、感覚系の問診・視診	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
フィジカル アセスメント	フィジカル アセスメント 5	精神科領域の高齢者の 身体的観察	加齢に伴う身体機能の 変化	呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、 内分泌系、中枢神経系、運動器系、感覚器系、 体内水分量、運動・体力、 恒常性(防衛力・予備力・適応力・回復力)、 非定型性
			高齢者に多くみられる症 状	記憶力の低下、運動能力の低下、睡眠障害、 意識障害、せん妄、心理・精神機能の低下、 骨粗相症、老眼、味覚の異常、咀嚼力の低下、 嚥下障害、難聴、肺活量の低下、易感染、動悸、 高血圧、消化不良、残尿、頻尿、失禁、脱水、 電解質異常、転落・転倒
			急変時の対応	急変時のアセスメント、心停止の初期対応、 初期心肺蘇生法、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動器、 AED、救急カート、窒息、肺塞栓症
フィジカル アセスメント 6	救急・緊急時の対応	外傷時の対応	外傷病院前救護ガイドライン、 外傷初期看護ガイドライン、 外傷のアセスメントと初期対応、救急隊への引継ぎ、 搬送時の患者情報の整理と伝達、 精神科によくある外傷の種類、重症度	
		服毒時の対応	服毒時のアセスメント、服毒時の初期対応、 薬物中毒の症状、大量服薬の身体への影響、 異食行為	
		ボディメカニクス	ボディメカニクスの原則、力学的原理、 被介助者の身体的負荷	
フィジカル アセスメント 7	身体ケアに必要な技術	身体的な訴えが適切に できない対象者、身体 的不調に適切に対処で きない対象者	脱水・低栄養(重度の精神症状、認知機能の低下、摂食障 害、気分障害など)、 けいれん(てんかん、解離性障害、水中毒など)、 意識障害(せん妄)、アルコール依存症の離脱期、 長期間の管理が必要な身体疾患(糖尿病などの生活習慣 病など)、 精神と身体つながり、精神面と身体面のアセスメント	
		身体合併症の予防が必要 な治療を受けている 対象者	身体拘束時(肺塞栓症、深部静脈血栓症、肺炎、褥創、神 経麻痺、循環不全など)、 向精神薬の副作用(悪性症候群、呼吸抑制、イレウス、誤 嚥、尿閉)	
		事故直後の対象者	転倒・転落、自傷行為、大量服薬、自殺未遂、 救急・緊急時のアセスメント	
フィジカル アセスメント 8	ケーススタディ			

研修会名 対象理解Ⅱ 精神保健福祉における個別課題

場所 京都研修センター
 日程 平成30年6月5日(火)～6月10日(日)
 定員 80名
 受講料 38,880円(非会員58,320円)
 科目名

精神保健福祉

単位数	2単位(4日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神保健福祉の理念を踏まえ、ライフサイクルの中で生じる精神保健福祉における個別課題への取り組みと実際について理解する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第9巻 退院調整 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第11巻 うつ病看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第14巻 薬物・アルコール依存症看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第15巻 児童・思春期精神看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第16巻 老年期精神障害看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第17巻 司法精神看護 精神看護出版 ○精神保健医療福祉白書2017 中央法規出版 ○精神科ナースのための認知症看護 中央法規出版 ○老年精神医学 高齢者の特徴を踏まえてケースに臨む 精神看護出版 ○我が国の精神保健福祉(精神保健福祉ハンドブック)H27年度版 日本公衆衛生協会 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks アディクション・パーソナリティ障害の看護ケア 中央法規出版 ○精神科ナースのためのアセスメント&プランニングbooks 家族ケア 中央法規出版

家族援助論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○家族システムの構造や機能を学習し、家族療法、家族援助を理解することができる。 ○患者と家族成員の相互関係を理解し、家族ケアの実践に活かすことができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第2巻 対人関係/グループアプローチ/家族関係 精神看護出版 ○家族にもケア 統合失調症はじめての入院 精神看護出版 ○事例にみるうつ病の理解とケア 精神看護出版

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神保健福祉	精神保健福祉1	社会保障の中の社会福祉	社会福祉の動向	社会構造の変化、社会保障・税一体改革
			社会保障と社会福祉の概念	社会保障の体系、社会福祉の理念・目的
			社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)	ソーシャルワーク理論、相談援助の理念
		障がい者福祉論	障がい者福祉	障害者基本法、障がい者福祉の理念、障害者総合支援法、 障害福祉サービス
			精神科リハビリテーション論	生活モデル、リカバリー、エンパワメント
精神保健福祉2	地域連携の取り組み	福祉事務所・社会福祉協議会における活動	生活保護、 日常生活自立支援事業 (地域福祉権利擁護事業)、成年後見制度	
		保健所・保健センター等の活動	地域精神保健活動(相談、訪問指導、危機介入)、精神科病院の入・退院に係る役割	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神保健福祉	精神保健福祉3	児童・思春期精神看護	医療機関における児童・思春期を支援する仕組み	専門医療機関、学校・児童相談所との連携
			地域における児童・思春期を支援する仕組み	児童虐待防止法(通告)、児童相談所
			児童虐待への取り組みの実際	児童虐待防止法、児童相談所、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待
			児童・思春期における家族支援	いじめ、引きこもり、自閉症、発達障害、家族教室
			児童期のうつ病	早期発見、不登校
			学校保健における取り組み	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
	精神保健福祉4	薬物・アルコール依存症看護	アディクションがもたらす家族への影響	共依存、イネープリング、アダルトチルドレン
			DVへの早期介入と地域連携	DV防止法、福祉事務所、トラウマ、アルコール健康障害対策基本法
			薬物・アルコール依存症患者の家族の心理教育	SMARPP、集団精神療法、家族会
	精神保健福祉5	当事者活動とセルフヘルプグループ	セルフヘルプグループとは	セルフヘルプグループの基本理念、AA、MAC、DARC
			保健医療専門職との関係	媒介、調整、情報提供
			当事者にとってのグループと専門職への期待	相互理解、自己覚知、エンパワメント
当事者活動の取り組み			ピアサポート、ピアサポーター、ピアスタッフ WRAP	
精神保健福祉6	老年期精神障害看護	身体疾患と抑うつ状態	生理的老化現象、慢性疾患、喪失体験、疎外感	
		老年期うつ	評価尺度、ライフイベント	
		加齢と認知症のケア	コミュニケーション方法、アクティビティーケア、カンフォータブルケア、生活・療養環境の調整、倫理的課題と意思決定	
		介護家族の体験と支援	家族介護支援、高齢者虐待問題	
精神保健福祉7	こころの健康問題と自殺予防	こころの健康問題がもたらす影響	ストレス、不眠、うつ病、自殺予防対策	
		うつ病患者の自殺の危険と対応の基本	危険因子・サイン、ゲートキーパー、職場復帰支援	
		産業保健における取り組み	定期健康診断、ストレスチェック	
		自殺対策基本法	国・地方公共団体の責務	
精神保健福祉8	犯罪被害者への支援	犯罪被害者の権利	犯罪被害者等基本法 犯罪被害者の尊厳	
		犯罪被害者のケア	支援ネットワーク、PTSD、ASD	
		犯罪被害者等基本法	国・地方公共団体の責務	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
家族援助論	家族援助論1	家族システムと看護	一般システム理論、システムとしての家族、システム理論と看護	家族の定義、家族の構造、システム、一般システム理論、家族、システムの階層性、システム理論の看護への応用、相互関係性、直接因果律、円環因果律、フィードバック
		看護に活用できる家族療法	家族療法の歴史	家族研究・家族療法の発展、家族システムの視点
			家族療法の変遷と発展	ボーエンの家族システム療法、ミニューチンの家族構造療法、MRIのコミュニケーション・アプローチ、ポストモダニズムと社会構成主義
			ジェノグラムとエコマップ	ジェノグラムとエコマップの目的、描き方、活用方法
	家族援助論2	精神科医療における家族援助	個人と家族と社会のとりえ方	家族構造の変遷、現代における家族の発達課題、ライフサイクルと家族、現代の家族の抱える問題、虐待、家庭内暴力、ドメスティックバイオレンス(DV)、依存症と家族
			家族のおかれている状況	精神保健福祉法における家族、家族会の活動、みんなねっと
			精神疾患患者をもつ家族の理解	家族の感情表出(EE)、家族支援の効果、家族の心的態度(心理社会的状況)
		家族援助の実際	家族援助の方法	家族への理解の仕方、家族援助の必要性、家族援助の目的、家族援助の基本的姿勢、家族援助の方法、家族との面接、家族への心理教育的支援、心理教育的アプローチ、早期支援

研修会名 精神科看護 I 看護状況

場所 京都研修センター
 日程 平成30年6月20日(水)～6月23日(土)
 定員 80名
 受講料 25,920円(非会員38,880円)
 科目名

精神科救急・急性期看護

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神科急性期医療の仕組み、法的・倫理的問題について理解する。 ○急性期におけるアセスメント、身体療法、回復に応じたケアについて理解する。
参考図書	○精神科看護ガイドライン 精神看護出版 ○DVDブック 医療職のための包括的暴力防止プログラム 医学書院 ○回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア 精神看護出版 ○精神看護エキスパート6 救急急性期 I 統合失調症 中山書店

行動制限最小化看護

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○行動制限関連の法規を理解し、臨床での運用の適不適が判断できる。 ○行動制限を最小化するための方略について説明できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト 第10巻 行動制限最小化看護 精神看護出版

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科救急・急性期看護	精神科救急・急性期看護1	精神科救急の制度と運用	非自発的入院	治療関係の構築、インフォームドコンセント
			治療の倫理的・法的理解	患者の権利の告知、行動制限
			精神科救急医療システム	精神科救急の概念、精神科救急医療体制整備事業
	精神科救急・急性期看護2	クライシス・インターベンション	身体的側面のアセスメント	せん妄、意識障害、睡眠、栄養、排泄、薬物療法の副作用、身体疾患、脳波
			心理・社会的アセスメント	エコマップ、HDS-R、MSE、MMSE
	精神科救急・急性期看護3	精神科における救急・急性期看護	急性期の薬物療法	陽性症状、認知機能、鎮静、服薬指導
			自殺企図患者の看護	自殺関連行動の把握、危険性の評価、再企図防止
			攻撃性・暴力のある患者の看護	攻撃の心理、アンガーコントロール、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)、ディエスカレーション技法、チームテクニクス、ディブリーフィング、暴力のリスクアセスメント
			外来における救急対応	精神科救急外来患者の特徴、来院時のアセスメント、受診拒否、診察準備、病棟と外来の連絡体制、家族への支援、病院と地域
			クリニカルパスと退院支援	目標、時間軸、治療・ケア内容、標準化

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
行動制限 最小化看護	行動制限 最小化看護1	行動制限最小化の 歴史	行動制限にまつわる歴 史的背景	ピネル、呉秀三、モラルトリートメント、ヨークレトリート、 東佐誉子事件、宇都宮病院事件、犀潟病院事件
			判例にみる行動制限	身体拘束の要件、不潔行為を理由とする身体拘束、 巡回の頻度
	行動制限 最小化看護2	行動制限最小化の 方略	精神保健福祉法に基 づく行動制限の基準と運 用の実際	隔離・身体拘束の要件、厚生省告示128号、 厚生省告示129号、厚生省告示130号、 隔離・身体拘束の解除、介護保険施設、 切迫性、非代替性、一時性、緊急避難、 行動制限最小化委員会
			行動制限最小化に向 けた看護の実際	緊急時の隔離・身体拘束、 開放観察における看護師の役割、 行動制限最小化の工夫、拘束帯の使用 方法、拘束中の合併症

研修会名 **精神科看護Ⅱ 地域生活を支える看護**

場所 京都研修センター
 日程 平成30年6月26日(火)～6月29日(金)
 定員 80名
 受講料 25,920円(非会員38,880円)
 科目名

退院支援

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神科領域における退院支援の意義と目的が理解できる。 ○退院支援の機能と役割が理解できる。 ○退院支援における各種制度の理解と活用方法が理解できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト 第9巻 退院調整 精神看護出版 ○精神科退院支援ビギナーズノート 中山書店 ○系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 ○精神保健医療福祉白書2017 中央法規出版 ○障がい者ケアマネジメントの基本 中央法規出版 ○多職種連携の技術 中央法規出版

精神科訪問看護

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神科訪問看護に関する制度等を理解できる。 ○精神科訪問看護を効果的に実践するための基本的な知識・技術を習得する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト 第12巻 精神科訪問看護 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第17巻 司法精神看護 精神看護出版 ○系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学②精神看護の展開 医学書院 ○系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
退院支援	退院支援1	退院支援の意義と目的	精神科領域における退院支援の課題	長期入院、入院医療中心 地域移行支援、地域包括ケアシステム
			精神科急性期の退院支援の意義と目的	早期退院、地域医療連携 家族支援
			精神科回復期の退院支援の意義と目的	ニューロングステイ、リハビリテーション、リカバリー
	退院支援2	退院支援の機能と役割	入院治療・看護計画における退院支援の位置づけ	クリニカルパス、地域連携パス
			退院支援に必要なアセスメントと評価	GAF、ADL、IADL、BPRS、身体合併症、退院意欲 入院長期化リスクアセスメント
			退院支援に向けた効果的なカンファレンスの運営	チームカンファレンス、医療保護入院者退院支援委員会
			退院後の継続医療及びフォローアップの計画	クライシスプラン、レスパイト、ショートステイ
			多職種及び関係部署との効果的な連携	チーム医療、退院支援室、地域連携室
			退院支援3	退院支援における各種制度の活用
			介護制度の基礎的な知識と介護サービスの利用調整	高齢精神障がい者、介護保険法

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
精神科訪問看護	精神科訪問看護1	精神科訪問看護に関する制度	訪問看護に関する制度 (診療報酬等)	健康保険法、介護保険、自立支援医療、診療報酬、訪問看護ステーション
		精神科訪問看護の基礎	精神科訪問看護の定義と機能	その人らしさ、QOL、ニード、入院看護との違い
			精神科訪問看護師に求められる視点	ストレンクス、リカバリー、患者-看護師関係、中立、権利擁護、再発防止、危機介入
			インフォームドコンセントと自己決定	信頼関係、説明と同意、精神症状のアセスメント、認知能力、伝える工夫、実行のサポート
			コミュニケーション	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、傾聴、受容、共感
			家族支援	EE、人的環境、情緒的反応のプロセス、孤独感、負担感、社会資源
	精神科訪問看護2	精神障がい者の地域ケア	精神障がい者のケアマネジメント	相談支援、ケアマネジメント、障害福祉サービス、地域連携、地域包括ケアシステム
			多職種によるアウトリーチサービス	ACT、精神障害者アウトリーチ推進事業、精神科重症患者早期集中支援管理料
		認知症患者への訪問看護	認知症患者の地域生活継続のポイント	類似症状、高齢者の生理的反応症、せん妄、家族支援、地域連携
			認知症の病期別の看護目標	初期の看護目標、中期の看護目標、末期の看護目標、カンフォータブル・ケア
		医療観察法における訪問看護	指定通院医療機関における医療	通院処遇、指定通院医療機関の役割、多職種チーム会議、ケア会議
			地域関係機関相互の連携と社会復帰調整官の役割	多職種チーム会議

研修会名 組織内における活動

場所 京都研修センター
 日程 平成30年7月1日(日)～7月6日(金)
 定員 80名
 受講料 38,880円(非会員58,320円)
 科目名

看護サービス論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○精神科看護における質の高い看護サービスを効果的、効率的に提供するために必要な役割機能やマネジメントなどの基礎理論を理解する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○ヒューマン・サービスの経営 超高齢社会を生き抜くために 白桃書房 ○医療の質と患者満足 サービス・マーケティング・アプローチ 千倉書房 ○看護管理学習テキスト 看護マネジメント論 日本看護協会出版会

リーダーシップ論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○リーダーシップの定義とリーダーシップを発揮するために必要な知識や考え方を理解できる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第5巻 コンサルテーション/リーダーシップ 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第6巻 看護管理/医療安全/関係法規/障がい者福祉 精神看護出版 ○組織行動のマネジメント―入門から実践へ ダイヤモンド社 ○組織の心理学 有斐閣ブックス ○看護管理学習テキスト 看護組織論 日本看護協会出版会 ○看護管理学習テキスト 看護マネジメント論 日本看護協会出版会 ○看護管理学習テキスト 看護における人的資源活用論 日本看護協会出版会

教育論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式、演習
到達目標	○成人の学習の特徴を理解する。 ○学習を引き出し、豊かにする指導者の役割と支援方法を理解する。 ○効果的な院内研修の企画運営ができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第7巻 看護教育/看護研究 精神看護出版 ○成人教育の現代的実践 ペダゴジーからアンドラゴジーへ 鳳書房 ○教育評価 第2版補訂2版 有斐閣双書

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
看護サービス論	看護サービス論1	看護サービス論	看護管理者の役割と業務	看護サービスの概念、看護サービス管理のプロセス、看護業務の標準化、看護サービスの質、保証と評価・改善、 ドナベディアン(Donabedian)の医療の質 、医療安全、看護サービスマネジメント、保健・医療・福祉サービスのしくみ、サービス提供体制の変革、 PDCAサイクル
			精神科看護サービスと患者(顧客)満足	患者(顧客)満足、接遇、マナー
			看護の実践と責任体制	目標管理、看護基準、看護手順、病棟(看護単位)の責任体制、アセスメントと計画、説明と同意、パートナーシップ、医療安全確保、人権擁護と倫理的配慮
			看護機能の評価	評価の目的、評価の方法、評価項目、病院機能評価、クリニカルパス、標準化
看護サービス論2	看護提供システム	看護の提供体制、サービスの質の保証	看護職員の配置基準、看護方式の種類、病床管理の方法	
		看護必要度、精神科看護度等	診療報酬、看護必要度の構成、評価項目、精神科看護度の項目	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
リーダーシップ論	リーダーシップ論1	リーダーシップ論	組織づくりとリーダーシップ	組織の定義、組織の成り立ち、集団の機能、組織構造、組織変革、組織文化、組織分析、個人と組織のかかわり、リーダーシップの有効性、リーダーシップとマネジメント、リーダーシップ・スタイル、管理者の要件
			問題解決技法	問題の認識、発生型問題、探索型問題、設定型問題、問題解決のプロセス
			組織改革に活かせる理論	変革理論、組織分析の目的、手法、組織開発、 ハーシー(P. Hersey) 、 レビン(K.Lewin)
	リーダーシップ論2	看護チームにおけるリーダーシップ	リーダーの育成、リーダーシップの発揮	リーダーシップの定義、リーダー教育、リーダーの要素、目標管理、キャリア別教育、 ロビンズ(S.P.Robbins) 、 フレデリック・ハーツバーグ(Frederick Herzberg) 、 F.W.テラー(Frederick Winslow Taylor)
			精神科認定看護師の活動	精神科認定看護師の役割、委員会活動、病棟横断的活動、業務改善活動、多職種連携、ロールモデル
教育論	教育論1	教育に必要な理論 教育プログラムの展開に必要な教育技法	成人の学習者のための教育	学習理論、成人学習者の特性、生涯学習の概念とプロセス、成人の学習理論、 ノールズ(M.S.Knowles)
			教育プログラムとは	教育課程(カリキュラム) 、教育プログラム
			教育プログラムの構成	教育目的 、 教育目標 、 教育内容 、 教育方法 、 教育評価 、 ブルーム(B.S.Bloom)
			学習目標の分類、特徴、意義	言語情報、知的技能、認知的方略、態度
			教材	プレゼンテーション資料、体験的資料、確認用資料、用具、器具
			学習形態の種類	一斉学習 、 グループ学習 、 個別学習 、OJT、Off-JT、講義型、対話・体験型、e-ラーニング、ディベート、マルチ学習方式
			教授のスキル	アクティブラーニング
			プログラムの評価	必要性、有効性、効率性、評価指標
	教育論2	院内研修の立案(演習)	ニーズの把握と研修目的の設定	ニーズの把握、 クリニカルリーダーシステム 、情報収集、対象者のアセスメント、研修目的の設定
			プログラムの立案・運営	計画立案、内容の組み立て、教材作成、運営実施計画
院内研修企画の発表		院内研修計画の発表	* 上記のキーワードをふまえて発表すること	

研修会名 チーム医療

場所 東京研修会場／京都研修センター
 日程 東京:平成30年7月10日(火)～7月15日(日) 左記のとおり日程変更／ 京都:平成30年7月24日(火)～7月29日(日)
 定員 40名
 受講料 38,880円(非会員58,320円)
 科目名

コンサルテーション論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式 コンサルテーションの演習
到達目標	○コンサルテーションの基礎となる理論と知識を学ぶ。 ○コンサルテーションを必要とした事例に関する演習を行い、具体的活動の計画を立てることができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第5巻 コンサルテーション／リーダーシップ 精神看護出版

チームアプローチ論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式 演習
到達目標	○地域を含む各医療職の構成員の専門性、役割、責任を理解することができる。 ○医療現場におけるグループダイナミクスを理解し、グループの目的に応じたリーダーシップ、またはメンバーシップの役割を担うことができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第2巻 対人関係／グループアプローチ／家族関係 精神看護出版

リエゾン精神看護

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式 事例検討
到達目標	○医療におけるリエゾン活動の意義を理解する。 ○リエゾンチームで看護スタッフとして活動するための基礎となる知識を得る。 ○リエゾンの視点から、事例のアセスメントを行い、看護計画を立てることができる。 ○多職種チームにおける活動の基本を理解する。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第5巻 コンサルテーション／リーダーシップ 精神看護出版 ○実践 精神科看護テキスト 第11巻 うつ病看護 精神看護出版

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
コンサルテーション論	コンサルテーション論1	コンサルテーション論	コンサルテーションの考え方と基礎となる技法	コンサルテーションの定義、目的、前提、コンサルタントとコンサルティ、コンサルテーションのモデルとタイプ、コンサルテーションの手順、カプラン(G.Caplan)
		コンサルテーションの導入	病棟へのコンサルテーション導入の実際	院内教育の活用、システムへの導入、問題の明確化、目標(望まれる結果)の設定、情報収集、計画の立案と実行、フォローアップと評価、ターミネーション
		チーム医療の実際	多職種との連携	チーム医療の原則、各職種の専門性の理解、多職種間のコミュニケーション、目的・目標の共有
コンサルテーション論2	コンサルテーション演習	コンサルテーションを必要とした事例に関するアセスメントと活動計画の立案	*事例を通してコンサルテーションの手順に沿った展開をする	

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
チームアプローチ論	チームアプローチ論1	チームアプローチ論	チームアプローチの基本概念	People-Centered Careの定義、概念、チームの定義、チームの種類、プロセス、チームに生じる葛藤や問題、解決法
			インタープロフェッショナルワーク	専門職間の協働関係、基本原則、リフレクションとコミュニケーション
		システムズアプローチ	システムズアプローチ	一般システム理論、システムの階層、直線因果律、円環因果律、フィードバック、ホメオスタシス
	チームアプローチ論2	チームビルディング演習Ⅰ	チャレンジプログラム	チーム作り、チームへの貢献、相互作用、役割意識、リーダーシップ、メンバーシップ
		チームビルディング演習Ⅱ	精神科におけるチーム医療	困難が生じた時のチームでのかかわりを事例で展開
リエゾン精神看護	リエゾン精神看護1	リエゾン精神看護の理念と役割	リエゾン精神看護の歴史と理念、役割	コンサルテーション・リエゾン精神医学の発展、リエゾン精神看護学の発展、リエゾン精神看護の目標、リエゾン精神看護の機能、直接ケア、面接、リラクゼーション、メンタルヘルス支援
		リエゾン精神看護の基礎となる主な理論	危機理論、防衛機制、ストレスコーピング理論、システム理論など	精神力動論、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論、対象喪失理論、心身相関の理論、システム理論、危機理論、ストレス・コーピング理論
		一般診療科における精神的な問題とケア	一般診療科でおこる精神的な問題と対応の基礎	不安状態、怒り、気分障害、せん妄、依存、痛み、摂食障害、産前産後の精神の不調、治療に非協力的な患者、離脱症候群、臨死、家族の問題、自殺念慮、ストレス、ショック状態、慢性疾患患者、終末期(ターミナル)
		リエゾンチームと看護職の役割	リエゾンチームをめぐる制度と看護職の役割	精神科リエゾンチーム加算、精神状態の評価、診療実施計画書の作成、カンファレンス、治療の評価、連携
	リエゾン精神看護2	事例による演習	事例へのアセスメントと看護計画の立案について演習	「一般診療科でおこる精神的な問題」の事例に関して、精神状態のアセスメント、目標、計画立案

研修会名 患者－看護師関係 援助関係

場所 東京研修会場／京都研修センター
 日程 東京：平成30年8月7日（火）～8月10日（金） 京都：平成30年8月1日（水）～8月4日（土）
 定員 40名
 受講料 25,920円（非会員38,880円）
 科目名

対人関係論

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式
到達目標	○患者および患者にかかわる人々を取り巻く人々と関係を構築するために、自己の対人関係の特徴を知るとともに、対人関係を構築し発展させる能力を向上させることができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第2巻 対人関係／グループアプローチ／家族関係 精神看護出版

精神科看護学

単位数	1単位(2日間)
学習方法	講義形式 事例検討
到達目標	○具体的な事例を通して、患者-看護師間の専門的な関係性について考察し、看護現象について他の人に説明できる。 ○人間関係の特徴を学び、再構成法や事例検討という方法を使って、看護場面における関係性の見直しができる。
参考図書	○実践 精神科看護テキスト<改訂版> 第1巻 看護実践／看護倫理 精神看護出版 ○実践に活かす！精神科看護事例検討 中山書店

研修内容

科目名	大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)	キーワード
対人関係論	対人関係論1	対人関係論	対人関係の基礎	治療的な患者と看護師の関係、治療的なコミュニケーション カウンセリング論
			援助場面における人間関係	関係のプロセス、転移、逆転移、直面化、抵抗、交流分析、エゴグラム、アサーション
			医療チームにおける人間関係	IPW(インタープロフェッショナルワーク)、チームコンフリクト
			援助場面における自己活用・自己覚知	自己覚知、自己開示、価値観の明確化、感情の探求、倫理と責任、プロセスレコードの活用
対人関係論2	看護におけるグループアプローチ	グループダイナミクス	グループの役割と機能、メンバーシップ、リーダーシップ、グループの発達、グループの構造、バウンダリー、ビオン(W.R.Bion)、グループの種類、凝集性、コミュニケーションパターン、ヤーロム(Yalom. I.D)、グループの力と規範	
精神科看護学	精神科看護学3	精神科看護実践における援助関係	援助関係、プロセスレコード	ペプロウ、援助関係、C.ロジャーズ(Carl R.Rogers)、プロセスレコード、異和感の対自化、積極的傾聴、ナラティブアプローチ、相談面接技法
			事例検討という方法	看護事例の4局面、感情活用の4段階、自己一致、異和感の対自化、事例検討会参加者の態度類型、グループスーパービジョン
			患者-看護師関係に焦点をあてた事例検討会(演習)	*上記のキーワードをふまえた演習

研修会名 演習

場所 東京研修会場
 日程 演習1・2:平成30年8月18日(土)～8月19日(日)
 演習3:施設見学の日程
 演習4:平成31年1月11日(金)～1月13日(日)のいずれか1日間を受講
 定員 80名
 受講料 43,200円(非会員64,800円)
 科目名

演習

単位数	1単位(4日間)
学習方法	演習実施要項に基づいて実施する。
到達目標	○演習実施要項に示す。
その他	実習を実施する年度に受講し、演習(1・2)は実習前、演習(3)は10～12月の期間内、演習(4)は実習後に実施する。

内容

大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)
演習(1)	精神科看護学演習	多様な課題をもつ対象者の包括的アセスメントを行い、看護計画を立て提出する。 (事前学習レポート)
		グループワークで、包括的アセスメントの妥当性を検討する。
演習(2)	実習計画 (実習Ⅰ、実習Ⅱ)	各自で立てた実習目標や実習計画をグループで発表する。
		グループワークで意見交換を行い、実習目標や実習計画の明確化を図る。
	プレゼンテーション	事前学習レポートやグループワーク、発表を通して表現力を養う。
演習(3)	施設見学	所属施設の近くにある地域の社会資源を調べ、各自で施設見学の依頼を行い、見学実習を行う。
演習(4)	実習のまとめ	実習で学んだことや実習目標の達成度を課題レポートにまとめる。
		実習で受け持った対象者の看護展開を振り返り、実習のまとめを行う。

研修会名 実習 I

場所 協会指定実習施設
 日程 9月～12月に実施
 受講料 64,800円(非会員97,200円)
 科目名

実習 I

単位数	3単位(18日間・月曜日～金曜日に実習、土曜日は原則として記録日)
学習方法	認定志願者は、「入院医療看護コース」「外来・在宅看護コース」のどちらかを選択し、実習要項に基づいて実施する。
到達目標	○実習要項に示した実習目標とする。

内容

大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)
実習 I	多様な課題をもつ対象者への看護実践	事前学習レポート
		看護過程、包括的アセスメント、質の高い看護実践
		多職種との連携、コーディネートなどの実践
		対象者の看護実践について文献を活用して論述(ケースレポート)
	精神科認定看護師の役割と活動	他の看護職の相談と教育的な関わりの実践 ニーズの把握、リーダーシップ、自己活用

研修会名 実習Ⅱ

場所 協会指定実習施設
 日程 9月～12月に実施
 受講料 43,200円(非会員64,800円)
 科目名

実習Ⅱ

単位数	2単位(12日間・月曜日～金曜日に実習、土曜日は原則として記録日)
学習方法	認定志願者は、「入院医療看護コース」「外来・在宅看護コース」のどちらかを選択し、実習要項に基づいて実施する。
到達目標	○実習要項に示した実習目標とする。

内容

大項目	中項目 (単元)	小項目 (具体的な学習内容)
実習Ⅱ	多職種および 地域連携に重点を おいた看護実践	事前学習レポート
		看護過程、生活モデル、リカバリー、ストレングス
		対象者の看護実践について文献を活用して論述 (ケースレポート)
	関係職種、関係部門 等との連携の実践	多職種カンファレンス、多職種との連携、 コーディネートなどの実践
		関係機関との連絡・調整
		精神科医療の提供体制や地域連携などについて レポート報告

精神科認定看護師教育課程 平成30年度シラバス

発行日 : 2018年3月10日

発行 : 一般社団法人日本精神科看護協会 教育認定委員会

〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル7F

電話 : 03-5796-7033 FAX: 03-5796-7034

<http://www.jpna.jp> E-mail: info@jpna.or.jp